



## 大学と市民の交流拠点が誕生！

### 宮崎大学まちなかキャンパス

平成29年1月末に若草通に設置予定。公開講座、イベント、研究発表などさまざまな活動の拠点として活用されます。社会人と学生との交流を進め、学生の成長につなげるほか、中心市街地の活性化にも役立てます。

## 将来につながる多目的空間！

### Doまんなかモール委員会

中心市街地商店街の活性化を目的に、平成17年に7商店街と5大型店が「あたかもひとつのショッピングモールのように」をコンセプトとして設立された有志団体。商店街の情報発信やイベントの企画・運営を行っています。

## 多様な人が出会う場を創出！

### 宮崎ベースキャンプ

「宮崎のマチナカをもっと楽しくしたい！」という思いを持ったメンバーが集結。中心市街地で月2回のごみ拾いを行いながら、高校生と社会人が触れ合える機会をつくったり、マチナカでイベントを開催したりしています。

## 「1勝99敗」の精神で「挑戦を！」

### みやざきスタートアップバレー

大学講師や企業経営などに携わる有志が集まり、宮崎の起業家を支援するために平成27年から活動を開始。現在では大手企業や、他県のまちづくり団体などと宮崎をつないだり、若手を育成したりするなど、幅広く活動しています。

宮崎大学では、研究者が興味深い研究を行っています。また、部活やサークルでがんばっている学生もたくさんいます。まちなかキャンパスは、そんな学内の人と市民の皆さんの接点をつくり、研究や練習の成果を伝えたいという思いで設置します。高校生や保護者の皆さんに大学の特徴や研究内容を知ってほしいと思います。公開講座やイベントなどさまざまな活動拠点として活用し、商店街のにぎわいにもつながられるといいですね。

Doまんなかモール委員会では、平成28年に若草通の「よつてんプラザ」2階にコミュニティスペースをつくりました。これからの商店街は商売だけでなく、近隣の企業で働く人や学生など、さまざまな人と関わりを深めていかなければいけないと感じています。このスペースは、多くの人が勉強会や会議など多目的に活用し、いろんなつながりを持てる拠点にしていきたいと思えます。集まった人から新しい発想や事業が生まれるとうれしいですね。

宮崎ベースキャンプでは、中心市街地を楽しめる場所にするため、月2回さまざまな世代が集まり、マチナカのごみ拾いを行っています。また、高校生などの若者に仕事や働き方を話す「ジョブカフェ」では、働くことや挑戦することに関心を持ってもらったり、「絵本の読み聞かせ」では親子で若草通に来てもらう機会を作ったりしています。これからも、チャレンジする姿勢を忘れず、マチナカを拠点に多様な人と出会う機会をつくり、若者の挑戦を応援していきたいですね。

「みやざきスタートアップバレー」は、宮崎を世界一挑戦しやすいまちにしようとの思いで、起業やまちづくりのための活動などに挑戦している人をさまざまな手段で支援しています。これまで国内外のまちづくりの現場を見ていますが、宮崎市の中心市街地には、創業を支援する施設や、経験豊富な人材がそろうなど、失敗しても再び挑戦しやすい環境が整いつつあります。特に若い世代には、「1勝99敗」の精神で挑戦を重ねてほしいですね。



いけ のうつくむ 池ノ上 克さん(70)

平成3年に宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)産婦人科教授に就任し、救命救急センターの開設やドクターヘリの導入に尽力。2015年10月から宮崎大学学長。



ふくだ よしのり 福田 好哲さん(30)

中心市街地の活性化を目指す「Doまんなかモール委員会」の7代目委員長。学生や団体、企業と商店街とを結び付ける橋渡し役として活躍中。



つちや ゆう 土屋 有さん(36)

県外企業での上場企業取締役、起業などを歴任してUターン。宮崎市のIT企業で取締役などを務めたのち、現在は宮崎大学地域資源創成学部講師として教壇に立つ。



さいとう じゅんいち 齋藤 潤一さん(37)

奈良県出身。平成23年に宮崎にUターン後、全国各地で地域ビジネスのプロデュースを手掛けている。慶應義塾大学(非常勤講師)・MBA(経営学修士)。

## もっと挑戦しやすいマチナカの実現に向けて

今後、急速に人口減少が進むことが予想される中、非常に高い目標ではありますが、私たちが愛する宮崎が、子どもや孫たちの世代にまで魅力的で、パワーを持つ「まち」であるために、責任を持って進めたいと考えています。

「マチナカには多くの人・もの・情報が集まっています。これらの資源を生かし、日本一挑戦しやすい場所になります！」

日本は、人口減少社会に突入しています。日本創成会議の推計では、市の人口は2060年までに11万人減少すると予想されていますが、市としては、それを6万人の減少にとどめたいという目標を立てています。

推計と目標の人口差は5万人。定住人口一人当たりの年間消費額は約120万円とされていますので、人口5万人の差は、600億円の消費の差を生みます。

宮崎市長 戸敷 正

## 私たちはチャレンジャーを応援します！



宮崎市商店街振興組合連合会 吉田 孝平 理事長

## 中心市街地はチャンス宝库！

私は20年ほど前から中心市街地に住んでいるのですが、新たに店舗経営に参入する人や、若くして起業を志す人、新たな拠点を開設する県外企業が増えるなど、以前はあまり見られなかった変化を感じます。中心市街地で働く人が増えれば、昼間の人通りの増加につながり、飲食業やサービス業にも好循環が生まれます。この動きをリードしている若手チャレンジャーたちの存在は、実に頼もしい限りです。

そして願わくば、皆さんにはぜひ中心市街地の住人にもなってほしい。マチナカをわがまちとして、地域の将来を担ってほしいと思います。